

(12) 沖 縄



沖縄地域では、景気は着実に回復している。

- ・ 観光は堅調に増加している。
- ・ 個人消費は堅調に増加している。
- ・ 雇用情勢は着実に改善している。

(注) 下線を付した箇所は、前回からの変更のあった箇所を表す(↑は上方に変更、↓は下方に変更)

前回調査からの主要変更点

	前回 (平成 29 年 5 月)	今回 (平成 29 年 8 月)	
住宅建設	増加	減少	

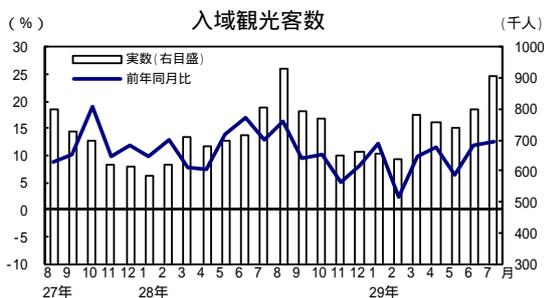
1. 観光及び企業動向

(1) 観光は堅調に増加している。

入域観光客数のうち、国内客について、4月は、県内での大型イベントの複数開催等により、主要方面で前年を上回った。5月は、ゴールデンウィークの日並びが良かったことで、臨時便の運航があったことや、前年の熊本地震で縮小した旅行需要が回復したこと等から、前年を上回った。また6月は、離島への新規就航など航空路線の拡充があったこと等により、前年を上回った。

外国客については、4月は、韓国・大邱及び中国・西安 - 那覇路線の新規就航を含む航空路線の拡充があったこと等から主要方面で前年を上回った。5月は、韓国の大型連休や中国の端午節休暇があったこと等から、前年を上回った。6月は、台湾・高雄 - 那覇路線の増便を含む航空路線の拡充等から、前年を上回った。

主要ホテルの客室稼働率は、那覇市内ホテル、リゾートホテル共に前年同期を上回っている。



入域観光客数等の動向

(単位: 千人、%)

	28年10-12月	29年1-3月	4-6月	29年7月
入域観光客数	2,081	2,069	2,299	907.9
(前年比)	7.8	8.2	9.8	12.7
ホテル稼働率	78.2	82.6	80.5	-
(前年差)	1.6	2.2	1.3	-

(備考) 1. 入域観光客数は沖縄県観光政策課調べ。

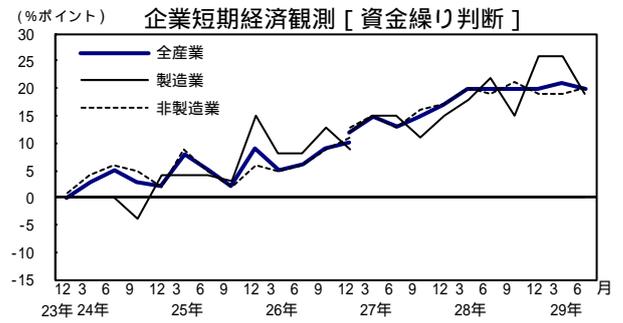
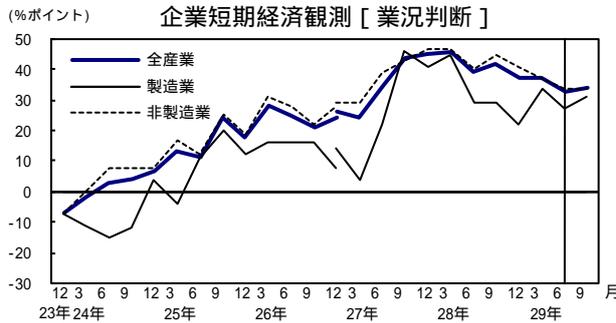
2. ホテル稼働率は日本銀行那覇支店調べ。

3. ホテル稼働率の前年差については、内閣府にて算出。

(12) 沖縄

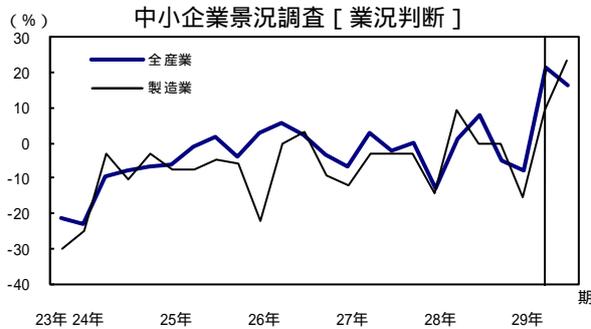
(2) 企業動向の業況判断は「良い」超幅が縮小し、資金繰り判断は「楽である」超幅が横ばいとなっている。

企業短期経済観測調査及び中小企業景況調査



(備考)「良い」-「悪い」回答者数構成比。29年9月は予測、26年12月は新・旧基準を併記。

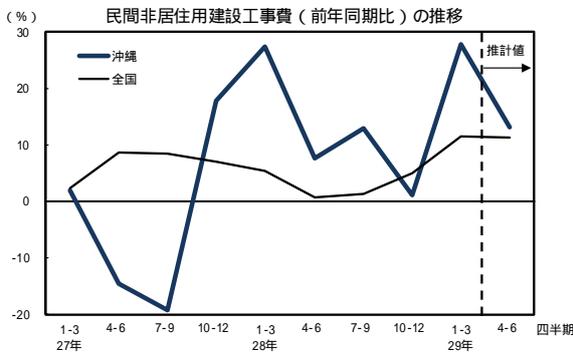
(備考)「楽である」-「苦しい」回答者数構成比。26年12月は新・旧基準を併記。



(備考)「好転」-「悪化」回答者数構成比。29年 期は見通し。

景気ウォッチャー調査(7月)[企業動向関連(現状)]
 「売上、販売量共に伸びており、業界内では景気が悪くなっているという話は聞こえない。ただし競争は厳しくなっている(食料品製造業)」などの回答がみられた。

(3) 設備投資の民間非居住用建設工事は大幅に増加している。



企業短期経済観測調査 [設備投資(6月調査)]

	(前年度比、%)	
	28年度実績	29年度計画
全産業	28.3 (1.2)	52.8 (14.9)
製造業	113.5 (7.3)	1.2 (4.9)
非製造業	19.2 (0.2)	63.0 (16.1)

(備考)()は前回(3月)調査比修正率。

(備考)29年4-6月期は国土交通省「建設統計月報」の非居住用建築物工事費予定額を平均工期9.8か月で進捗展開し、その伸び率を基に実績額を延伸。

2. 需要の動向

(1) 個人消費は堅調に増加している。

地域別消費総合指数 (RDEI (消費))

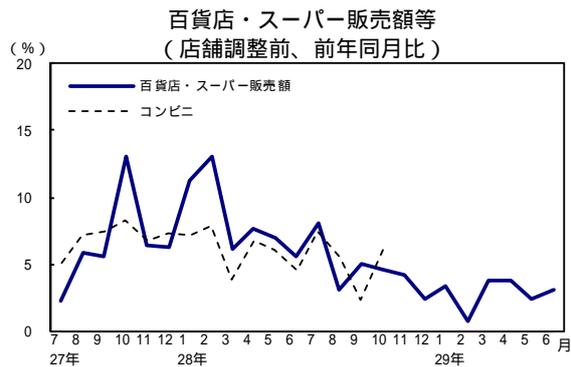
4月は前月比0.6%増、5月は同0.2%増、6月は同0.2%増となった。

百貨店・スーパー販売額

4月は、清明祭関連需要などで食料品が好調だったこと等から前年を上回った。5月は、精肉や飲料等の食料品が伸長したこと等から前年を上回った。6月は、催事効果や外国人観光客による消費が好調なことに加え、食料品が伸長したこと等から前年を上回った。

景気ウォッチャー調査 (7月) [家計動向関連 (現状)]

「海外、特に東南アジアからの観光客が以前に比べてかなり増えている (一般小売店 [靴・袋物])」など、「やや良くなっている」とする回答が増加した。

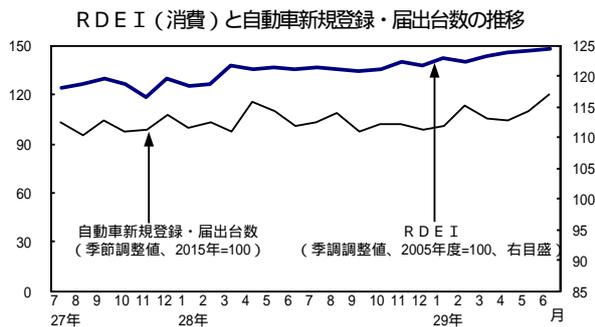


	29年4-6月	29年4月	5月	6月
RDEI (消費*1)	1.1	0.6	0.2	0.2
百貨店・スーパー(*2)	3.1	3.7	2.4	3.1
コンビニ(*2)	13.6	15.7	13.1	12.0
乗用車(*3)	4.7	8.6	0.8	17.8
(季節調整値)(*3)	4.5	1.1	5.7	8.5

(備考) 1. 季節調整済前期(月)比 (%)

2. 百貨店・スーパーは経済産業省調べ(店舗調整前)、コンビニは日本銀行那覇支店調べ、2016年11月以降の計数は不連続。前年同期(月)比 (%)

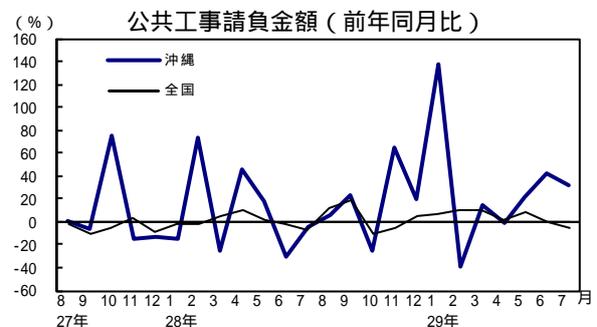
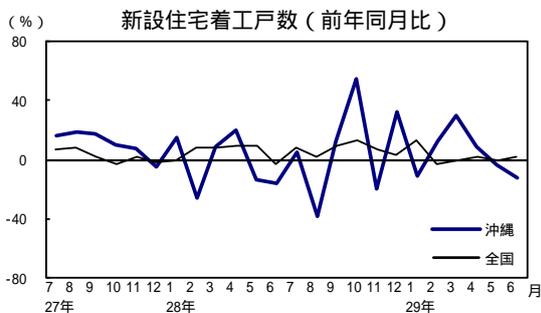
3. 乗用車は、乗用車新規登録・届出台数(上段は前年同期(月)比 (%))



(2) 住宅建設は減少している。

貸家が前年を下回ったことから、全体では減少している。

(3) 公共投資は29年度累計で見ると前年度を上回っている。

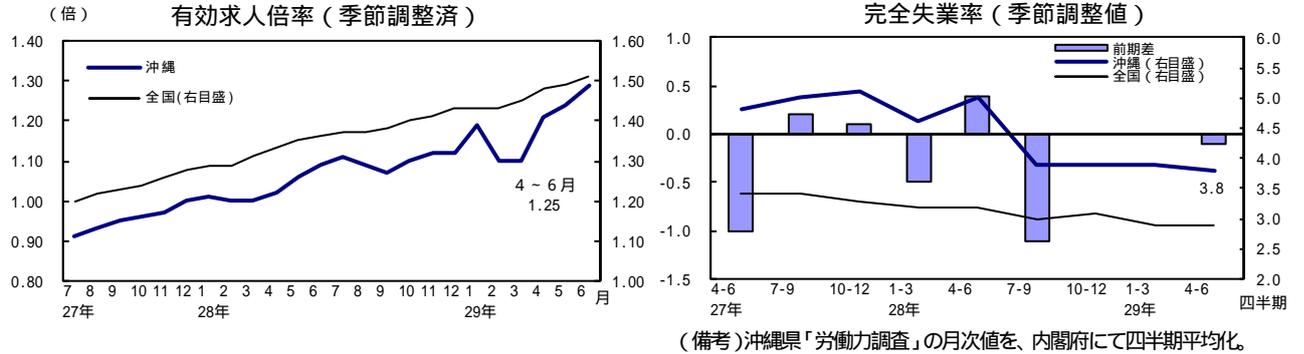


3. 雇用情勢等

(1) 雇用情勢は着実に改善している。

有効求人倍率及び完全失業率等

有効求人倍率は上昇している。完全失業率は前期を下回っている。



景気ウォッチャー調査 (7月)[雇用関連 (現状)]

「今まで派遣依頼のあった職種以外の問い合わせや、はるばる遠方から依頼のために訪ねてくるなど、どの業種も人材確保が厳しく、派遣会社に頼るところが増えている(人材派遣会社)」などの回答がみられた。

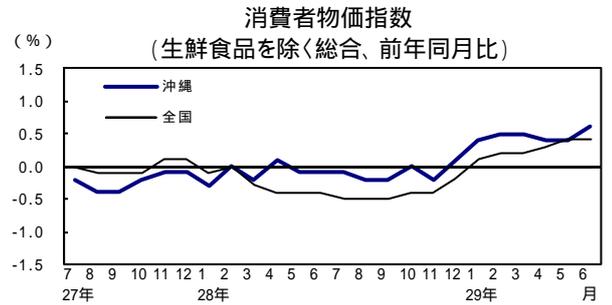
(2) 企業倒産は、件数は大幅に減少、負債総額は減少している。

(3) 消費者物価指数は前年比の上昇幅がおおむね横ばいとなっている。

企業倒産

	(件、億円) %				
	28年7-9月	10-12月	29年1-3月	4-6月	29年7月
倒産件数	6	9	20	8	5
(前年比)	66.7	43.8	33.3	33.3	-
負債総額	4	12	27	6	3
(前年比)	92.7	35.3	1.5	28.6	-

(備考)28年7月の倒産件数及び負債総額が0のため、29年7月の前年比は計算不可。



景気ウォッチャー調査 (7月調査結果)[合計 (特徴的な判断理由)]

<現状>

・前年同時期に比べて単価を上げて販売したが、特にマイナスの影響は無く、客数が増加傾向となり、業績は良いとみている(ゴルフ場)

<先行き>

・地元客の動向は前年並みと予測しているが、インバウンド客の伸びが継続する場合は、その分が上乗せできるとみている(百貨店)

